

# EN (絶滅危惧 I B 類)

コイ目 コイ科

カテゴリー判定基準：A-1

## カワバタモロコ

*Hemigrammocypsis rasborella* Fowler, 1910

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1999	2007
—	EN	EN

日本固有種

本種は全長30～60mmの小魚で、静岡県以西の本州太平洋側、四国地方瀬戸内海側および九州地方北部に分布する日本固有種である。平野部の池沼や灌漑用水路に生息する。本種の減少要因として、北米原産の外来魚2種による捕食、灌漑用水路のコンクリート化、放置による溜池の荒廃、さらには化学肥料、農薬などの流入などの影響が考えられる。

*Hemigrammocypsis rasborella*, “Kawabata-moroko” in Japanese, is less than 60 mm in total length, is distributed in river basins along the Pacific coast of western Honshu, the Seto Inland Sea side of Shikoku, and northern Kyushu. Thirty-four years ago, the species was common in shallow ponds and small irrigation waterways. The recent decrease in numbers of this species is considered to have resulted from the conversion of farmland, predation by two alien species from the USA, devastation of ponds, flowing of agricultural chemicals and others.

### 基礎情報

■**形態** 全長30～60mm。体形は細長く、いわゆるハヤ型で体は側扁する。頭は小さく口は斜め上を向き、口髭はない。腹鰭より肛門前にいたる腹面には顕著な皮質の隆起が目立つ。側線は不完全。全体として黄色みを帯び、背部は淡褐色で、後頭部から背鰭基部にかけて背中線に暗色縦帯がある。体側と腹部は銀白色を呈する。眼の後ろから尾柄に達する暗褐色の縦帯が体側中央に走る。形態が似るヒナモロコ (*Aphyocypris chinensis*) は咽頭歯が2列で、本種より尾柄長、尾柄高ともに大きく、かつ鱗相も異なる。

■**分布域** 静岡県瀬戸川以西の太平洋に注ぐ河川に分布する。愛知、岐阜、三重、和歌山、奈良、滋賀、京都、大阪、兵庫、岡山、香川、徳島、福岡、佐賀の各府県から知られる。福岡県では筑後平野にすみ、かつては博多湾に注ぐ川でも見られた。分布の西限は佐賀県塩田川、鹿島川、松浦川 (1957年に1個体確認) 辺りと考えられている。広島、山口両県からの記録はない。

■**生息環境** 本種はおもに平野部の流れの緩やかな細流、灌漑用水路、クリークや溜池などに

すむ。砂泥ないし泥底で沈水、挺水植物などが生えている場所を好む。かつて福岡市東部とその近郊では、素掘りの砂泥底からなる水田の細流で、メダカ、モツゴ、ヒナモロコ、ニッポンバラタナゴなどと共に生息していた。

■**生活史** 雑食性で、産卵期は5～7月。成熟したオスの体側は黄金色を呈する。水草類、冠水した湿性植物やその根に卵を付着させる習性がある。卵径は約1.0mmで日本のコイ科中でもっとも小さい。孵化仔魚は全長3.3mm、13mmを超えて稚魚期に達する。満1年で雌雄ともに成熟する。

### 現在の生息状況

■**分布域の現況** 阪神地方と京都府深泥池では本種がほとんど消滅。和歌山、愛知、滋賀の各県などでは絶滅寸前。三重、静岡県では生息環境の保全活動が行われているが、いずれの地においても数が急減している。福岡県では1984年に筑後川、矢部川両水系の6ヶ所で本種が確認されているが、最近では記録がない。佐賀平野でも耕地整理や宅地化の影響が懸念されている。

■**生息地の現況** 自然分布域内のほとんどの生息地で、河川改修、圃場整備、幹線水路の敷設

によるクリークの統合、溜池の放置と埋め立て、農地の宅地化、水の富栄養化が進んでおり、依然として生息環境の回復が見られない。溜池では本種を捕食する北米原産の外来魚2種（オオクチバス、ブルーギル）の侵入が広範に見られる。

**■個体数の現況** ほとんどの生息地で分布域が縮小しており、これにともなって個体数の減少が進んでいると考えられる。ただし、資料がないため個体数の正確な推定は不能である。

### 存続を脅かす要因

本種の減少要因として、溜池やそれに連続する灌漑用水路のコンクリート化（15-2）、北米原産の外来魚2種（オオクチバス、ブルーギル）による直接的な捕食（52-3）、放置による溜池の荒廃（53）などが考えられる。また、化学肥料、農薬などの流入（32）は、仔・稚魚の餌となる微生物相にも変化をもたらした可能性がある。

### 保護対策の現状

滋賀県立琵琶湖博物館や碧南海浜水族館等に

において飼育下での系統保存が行われている。

### 特記事項

水産庁のデータブックでは希少種とされている。Zarske (2013) は本種の学名を *Hemigrammocypis neglectus* に変更している。

### 参考文献

- Fowler, H. W., 1910. Description of four cyprinids (Rhodeinae). Proc. Acad. Nat. Sci. Phila., 62: 476-486.
- 星野和夫, 1998. カワバタモロコ. 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック (水産庁編), pp. 136-137. 日本水産資源保護協会, 東京.
- 星野和夫・細谷和海・河村功一・山科ゆみ子・亀井哲夫, 1997. カワバタモロコ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (IV), pp. 211-217. 日本水産資源保護協会, 東京.
- 細谷和海, 2000. カワバタモロコ. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索: 第二版. p. 261. 東海大学出版会, 東京.
- 金川直幸・板井隆彦, 1998. カワバタモロコの生息地と河川改修. 魚から見た水環境. 自然復元特集4, pp. 61-80. 信山社サイテック, 東京.
- 前畑政善, 2001. カワバタモロコ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編), 日本の淡水魚: 第3版, pp. 256-257. 山と溪谷社, 東京.
- 中村守純, 1969. 日本のコイ科魚類. 資源科学研究所, 東京. 455pp.
- 田島正敏, 1995. 佐賀県の淡水魚. 佐賀新聞社, 佐賀. 272pp.
- Zarske, A., 2013. *Barilius neglectus* Stielor, 1907 – ein Seniorsynonym von *Hemigrammocypis rasborella* Fowler, 1910 (Teleostei: Cypriniformes: Cyprinidae). Vert. Zool., 63(3): 253-257.

執筆者: 前畑政善 (神戸学院大学)